

あだちのこどもたち

VOL. 21



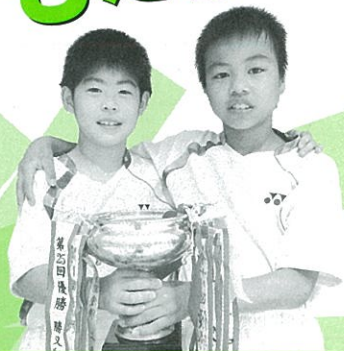
「初の全国の舞台」

幼稚園の年長から共に続けてきたバドミントン。初の全国大会で決勝戦へ進出しました。しかし、後半は優勝を意識し過ぎ、ミスが続く場面も。「(佐藤さんが)このとき、励ましてくれたり、面白いことを言ったりしてくれたので、緊張がほぐれてプレーすることができた」と弓削さん。ペースをとり戻した二人はスマッシュを決め、ダブルスで初優勝を果たしました。

「強さの秘訣」

力強いスマッシュと粘り強いレシーブ。二人のスピードと気迫あふれるプレーに魅了されました。強さの秘訣を尋ねると、「最後まで諦めない!」(佐藤さん)、「根性は誰にも負けない!」(弓削さん)と話してくれました。そんな二人は練習を離れても、モノマネをして、笑い合う大の仲良し。確かな絆を持つ二人だからこそ、大舞台で力を発揮することができました。

今年の全国大会の開催地は東京。「もちろん優勝します!」と二人は気合い十分なガッツポーズを見せてくれました。



第26回全国小学生バドミントン選手権大会 (男子ダブルス4年生以下の部) 優勝

左=梅島小学校(現在5年) **弓削** **綾登**さん
 右=栗原小学校(現在5年) **佐藤** **策太**さん



第12回彩の国杯全国中学校空手道選手権大会 (1年男子組手) 優勝

第四中学校(現在2年) **山中** **優空**さん

「何度も辞めたいと思った」

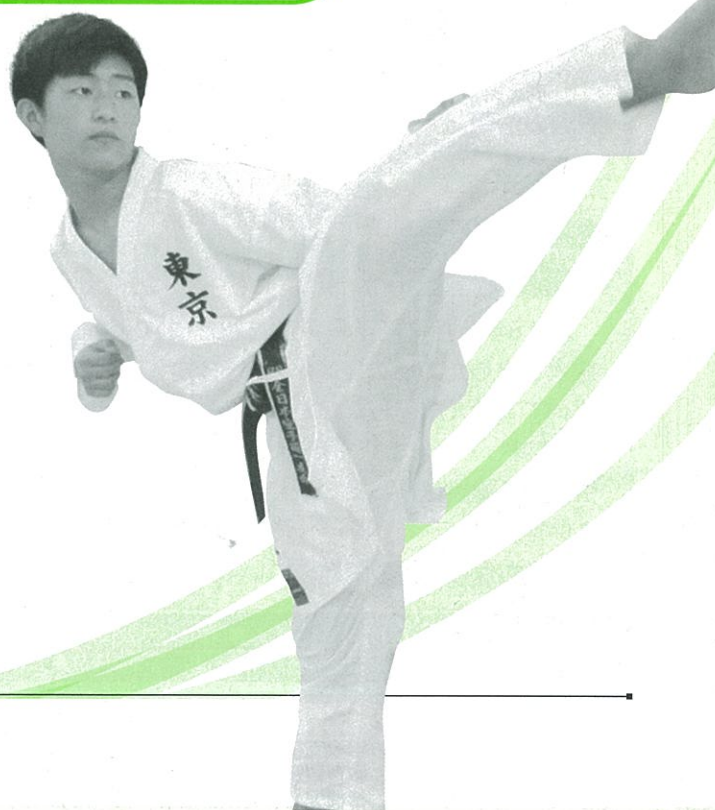
緊張感漂う全国大会、劣勢な状況下、ラスト2秒が勝負を分けてくれました。高校生との練習試合で経験した場面を思い出して闘ったそうです。この試合で勢いに乗り、見事優勝に輝いた山中さん。

これまでの道のりは、決して順調ではありませんでした。始めてからずっと勝つことができず、悔しくて、「何度も辞めたいと思った」と振り返ります。それでも、諦めなかったのは、純粋に空手と向き合うことが好きだったから。常に自分より強い選手に挑戦し続けました。

「夢は世界へ」

長年の努力が実り、今では間合いの取り方に優れ、どこからでもポイントが取れる選手として成長した山中さん。今年の5月に日本代表として出場したアジア大会では準優勝。決勝戦で自身の課題が見えたと、精進の毎日です。

最後に「いつかきっと世界大会で優勝する。それが私の夢です」と力強く語ってくれました。



information

学校支援課 庶務係 ☎ 3880-5961